

東通村漁業連合研究会「スルメイカ漁況の見通しに係る研修会」を開催



講師 今村研究管理員

今村研究管理員によると、本県周辺における漁況の見通しは、「秋季発生系群が主体となる日本海では、資源が大幅に回復する要素はなく、漁獲量は近年並み。冬季発生系群が主体となる津軽海峡、太平洋で漁期前半は前年並

み。5月25日（木）、村体育館において、村漁業連合研究会（濱端元一会長）主催による「平成29年度スルメイカ漁況の見通しに係る研修会」が行われました。42名が参加した今回の研修会では、講師の地方独立行政法人青森県産業技術センター 水産総合研究所 漁場環境部 研究管理員 今村豊氏から、近年の漁獲動向や水温分布に基づく、漁況の見通しについての講演がなされました。



研修会の様子

参加者は、昨年のスルメイカ漁の大不漁もあって、今年のスルメイカ漁の見通しについて、真剣に耳を傾けていました。今年は、見通しを上回る好漁になることを願っています。

みの低水準だが、海洋環境の良かった3月に、生まれたイカに期待して、漁期後半は前年を上回ると予想。資源量としては減少傾向が強いが、産卵場の海洋環境の動向と、漁場の水温動向を注視していく必要がある」とのことでした。

人権擁護委員表彰 ～ 仙台法務局長表彰・青森地方法務局長表彰 ～



成田俊一氏



坂本昭義氏



澤頭進氏

平成29年5月12日（金）むつ人権擁護委員協議会総会において、成田俊一氏（上田屋）が仙台法務局長表彰、坂本昭義氏（尻労）、澤頭進氏（白糠）が、青森地方法務局長表彰を授与されました。

これは、多年人権擁護委員として、国民の人権擁護と人権思想の普及高揚に貢献された功績が認められたものです。

平成28年度下北試験場関連公共用施設の整備について



導入した2トンディーゼル車

※特定防衛施設調整交付金は、防衛省技術研究本部下北試験場の、所在によって国から交付されるものであり、周辺漁協に対する、漁業振興対策に役立てています。

この事業は事業主体が尻労漁協、事業期間は平成28年8月23日から11月7日までの間で、2トンディーゼル車1台を導入しました。事業費162万円のうち、交付金を150万円活用しております。

平成28年度下北試験場関連公共用施設整備事業として、特定防衛施設調整交付金を用いて、尻労漁協フォークリフト整備事業を実施しました。